

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 08年10月 ～ITバブル崩壊時を上回る減産ペース

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

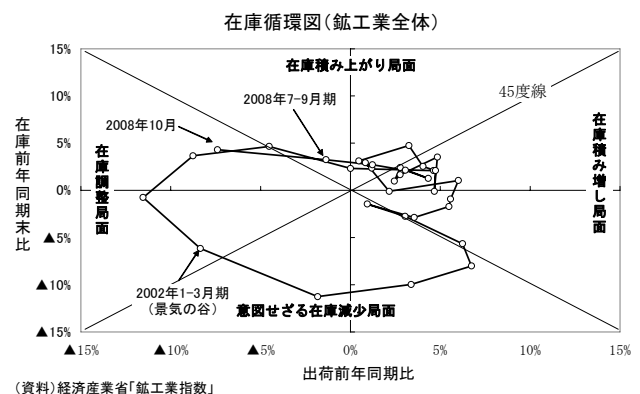
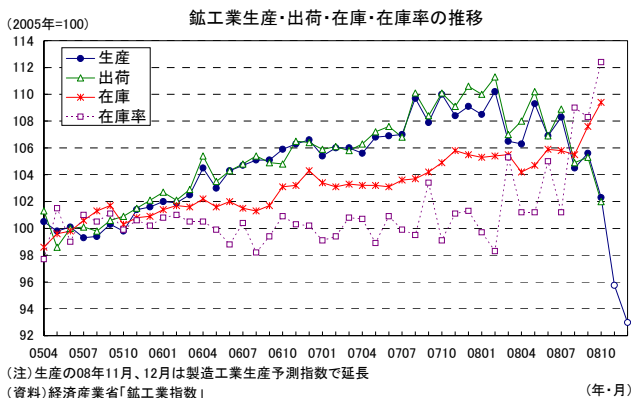
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 自動車の減産が本格化

経済産業省が11月28日に公表した鉱工業指数によると、10月の鉱工業生産指数は前月比▲3.1%と2ヵ月ぶりの低下となり、市場予想を下回った（ロイター集計：前月比▲2.5%、当社予想は同▲2.8%）。出荷指数は前月比▲3.1%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比1.7%と2ヵ月連続の上昇となった。在庫率指数は前月比3.8%となり、この3ヵ月間で11.1%の急上昇となった。

10月の生産を業種別に見ると、輸出の大幅な減少を主因として輸送機械が前月比▲5.8%と大きく落ち込んだほか、在庫積み上がりが続いている電子部品・デバイスが前月比▲8.9%と大幅な低下となった。また、鉄鋼が前月比▲4.0%と大きく落ち込むなど、自動車減産の影響が素材業種に広がりつつあることをうかがわせるものとなっている。速報段階で公表される16業種中、12業種が前月比で低下（3業種が上昇、1業種が横ばい）となった。

在庫循環図では、7-9月期は「在庫積み上がり局面」に位置していたが、出荷の減少幅が前年比▲7.4%と急拡大（9月は同▲0.6%）したため、10月単月で見ると2001年のITバブル崩壊時以来の「在庫調整局面」に移行した。

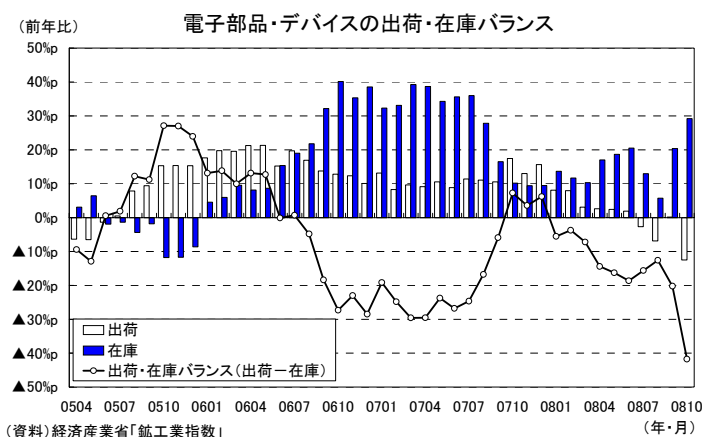


財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）7-9月期に前期比▲5.6%の大幅減少となった後、10月も前月比▲2.6%と落ち込んだ。7-9月期のGDPベースの設備投資は前期比▲1.7%と4-6月期の同▲1.4%から減少幅が拡大したが、10-12月期も大幅な減少が続く可能性が高い。

## 2. 10-12 月期は IT バブル崩壊時を上回る減産ペースに

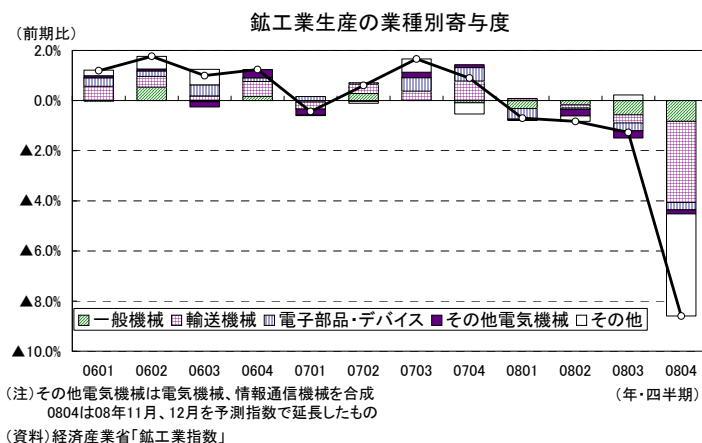
電子部品・デバイスの在庫指数は前月比 4.9%と 2 ヶ月連続の上昇となり、前年比でも 29.2%と積み上がり幅が拡大した（9 月：同 20.4%）。出荷指数は前月比▲8.3%と 3 ヶ月ぶりに低下し、前年比でも▲12.5%（9 月：同 0.1%）と大幅なマイナスに転じた。この結果、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は 9 月▲20.2%ポイントから▲41.7%ポイントへと大きく悪化した。

携帯電話、液晶テレビ、デジタルカメラなど IT 関連の最終製品が多く含まれる情報通信機械の在庫積み上がりが続いていること（10 月：前年比 43.3%）に加え、海外経済の低迷に伴い IT 関連財の輸出が急減速しているため、電子部品・デバイスの在庫調整は進展しにくい状況となっている。



製造工業生産予測指数は、11 月が前月比▲6.4%、12 月が同▲2.9%となった。前年比では 11 月が▲15.0%、12 月が▲14.7%となっており、企業の計画ベースではすでに IT バブル崩壊時を超える減産ペースとなっている。業種別には欧米向け輸出の大幅な減少が続いている輸送機械が、10 月の前月比▲5.8%に続き、11 月が同▲12.4%、12 月が同▲12.1%と大幅な減産を続ける計画となっている。

10 月の生産指数を 11 月、12 月の予測指数で先延ばしすると、10-12 月期の生産指数は前期比▲8.6%の大幅低下となる。7-9 月期までの生産は、景気後退局面としては比較的緩やかな低下にとどまっていたが、10-12 月期は減産ペースが一気に加速することがほぼ確実となった。四半期ベースで見た生産の落ち込み幅は IT バブル崩壊時の前期比▲4.4%（01 年 7-9 月期）を超え、現行統計が存在する 1978 年以降では最大となることが見込まれる。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。